

オール豊成のチームワークで『潤いと勢い』のある豊成小づくり

# Connect



帯広市立豊成小学校  
プロジェクト通信



平成30年8月30日  
NO.10 文責 小林



## 命をいただくということ・・・

～多自然ネットの皆さんとザリガニの試食体験～



8月24日(金)、3年生4回目の川の学習が行われました。心配された雨にもあたらず、とてもいい環境で学習することができました。河川敷も木俣さんをはじめ、開発局の方が草刈りをしてくださったので、見通しも良く、安全に授業を進めることができ、本当に感謝です。

さて、今回は、機関庫の川の生物観察がメインとなります。ウチダザリガニをはじめ、フクドジョウやヤマメ、珍しいヤツメウナギも捕れたようです。河川財団基金で購入した「薄型観察水槽」も大活躍！真横はもちろん、下からも至近距離でじ

くり観察することができ、それぞれの生き物の特徴を多自然ネットの皆さんから細かく教えていただくことができました。あまりにもよく見えるので、子どもたちも真剣に話に耳を傾けていました。

一方、そんな充実した活動の裏で毎回問題となるのが、大量に捕獲される「ウチダザリガニ」の存在です。子どもたちは、過去2年間の川の学習で、「駆除」という形でウチダザリガニを処分してきました。堆肥化することで「命のつながり」を説明はしてきましたが、「実感」という面では、かなり薄いものだと思います。そこで、今回は、「ウチダザリガニを食す」という最も実感できる体験学習を通して「命をいただく」「命のつながり」を直接感じられるように、多自然ネットの皆さんの協力を得て、素揚げにさせていただくことにしました。最初は、躊躇していた子どもたちも、次第にその美味しさがわかったようで、「まだ食べたい！」と、お代わりする子が続出！結局、捕獲した全てのザリガニを揚げていただいて試食しました。

阿寒湖周辺では、食材として積極的に活用されつつある「ウチダザリガニ」ですが、機関庫の川では、そうもいきません。川での活動を積極的に授業に取り入れるには、こういった命の問題とも向き合っていかなければならないのが現実です。「駆除は、自然を守るために必要なことである。」と押し通してしまう方法もありますが、こうやって環境保全の大切さを伝えながら、命を守るために別の命を絶つという大きな矛盾と向き合っていくことで、環境について真剣に考える機会になればと思います。

また、今回の子どもたちの様子を見て印象的だったのは、とても前向きに授業に臨んでいるということです。もちろん、内容的にも楽しい活動なので、座学に比べると積極的なのは分かりますが、それだけではない「マナー」を意識した言動が多かったように思います。協力していただいている方々に対して失礼のないように、「マイナス発言をしない。」「反応をしっかりとる。」「話をしっかりと聞く。」など、事前指導が十分にされていることが感じられる対応だったと思います。指導者の方々も大変喜ばれていて、その子どもたちの態度に応えようと本当に一生懸命説明して下さっていました。お互いがかみ合った、とても充実した2時間だったように思います。



さあ、次は、環境保全のために自分達にできることを考え、実践していく活動へと入っていきます。子どもたちがどんな対策を考えるのか楽しみですね。